

放っておいたら、あ肝！ 肝臓病の治療

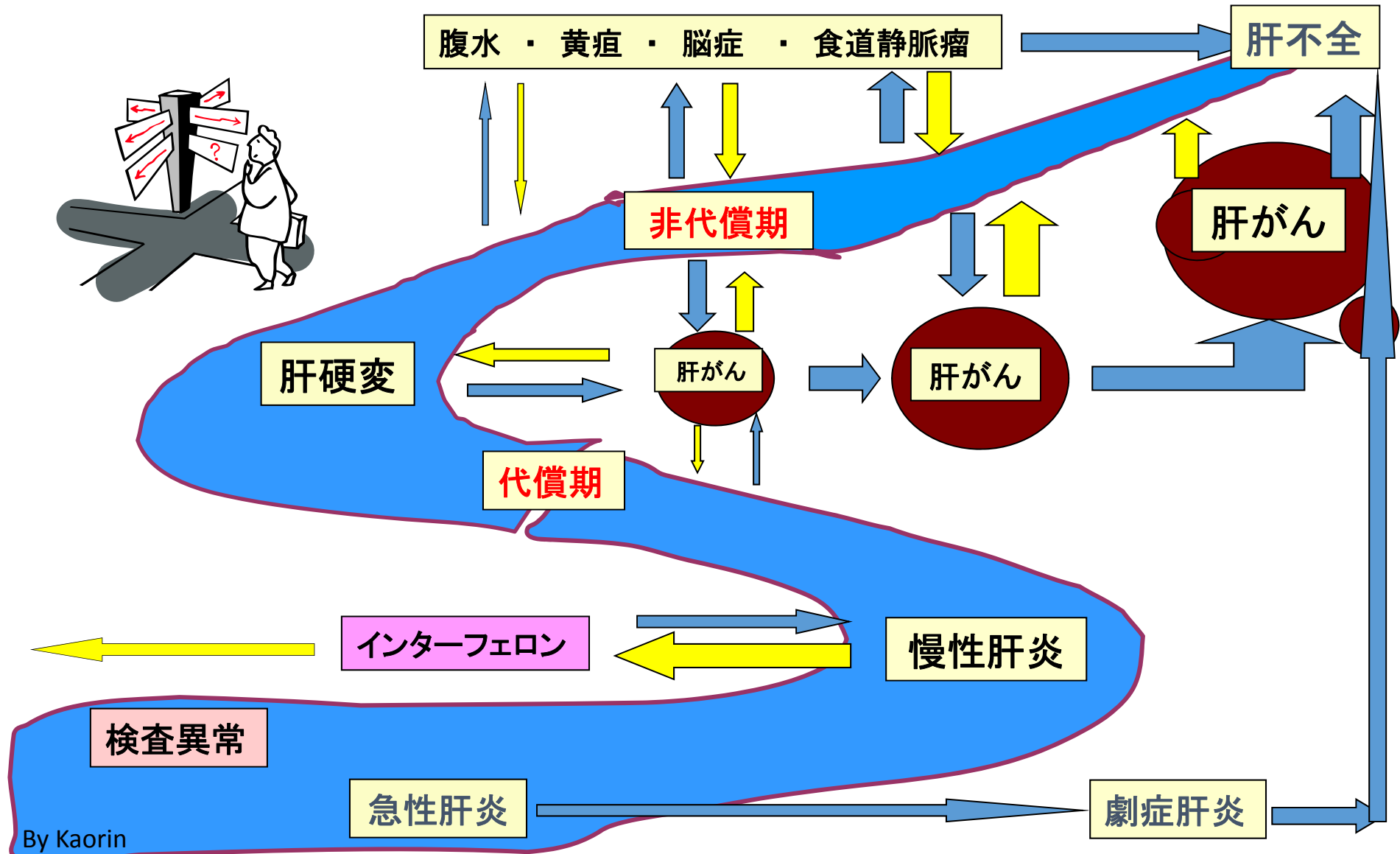
～お薬について～



加古川医療センター
薬剤部



慢性肝炎の行路



本日の内容

- 肝臓病の治療薬
 - ① 各疾患に特徴的な薬
 - 慢性肝炎の薬
 - 自己免疫性肝炎の薬 など
 - ② 肝機能を改善する薬
- 肝硬変 合併症の治療について
- アミノ酸製剤について



肝臓病のくすり

①各疾患に特異的な薬

原因ウイルスの駆除及びウイルスの減少によりAST・ALT値の正常化を目指す

- **C型ウイルス性肝炎治療薬**（飲み薬）
ソホスブビル+レジパスビル（ハーボニー[®]）
エルバスビル（エレルサ[®]）+グラゾプレビル（グラジナ[®]）
ソホスブビル（ソバルディ[®]）+リバビリン
グレカプレビル+ピブレンタスビル（マヴィレット[®]） など
- **B型ウイルス性肝炎治療薬**
ペグインターフェロン（注射） ・ エンテカビル（飲み薬） など
- **自己免疫性肝炎**に使用される免疫抑制剤
副腎皮質ホルモン、アザチオプリン など
- **原発性胆汁性胆管炎**に使用される ウルソデオキシコール酸

C型慢性肝炎治療薬

ウイルスを完全に駆除する

治療の第一目標は
C型肝炎ウイルスによる
肝がんの発症を阻止すること！

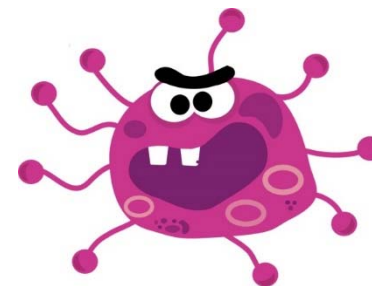


直接作用型抗ウイルス薬（DAA）

- インターフェロンは体内の免疫を活性化することでウイルスを排除していくが、DAAはウイルスの**遺伝子に直接作用**してウイルスの増殖を抑制し排除する。

DAAの特徴

- 飲み薬である。
- 服用期間が短く、比較的副作用が少ない。
- 遺伝子の異なる場所へ作用するDAAを併用することが多い。
（配合錠となっている薬剤もある）
- 治療不成功例では高頻度で遺伝子の変異が認められ、薬に効きにくい耐性ウイルスが発現するため注意が必要。

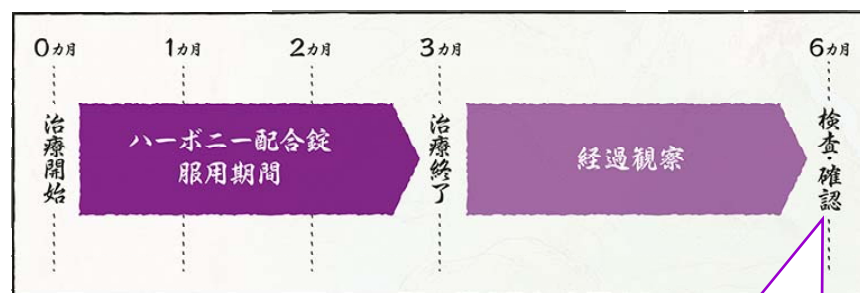


ソホスブビル+レジパスビル 併用療法 (ハーボニー[®]配合錠)

- ジェノタイプ1型・2型の
C型慢性肝炎又はC型代償性肝硬変に用いる
- 1日1回1錠、12週間(3ヶ月)服用
- 不整脈や腎機能障害がある方は注意が必要なお薬です

ハーボニー[®]配合錠

1日1回1錠を服用



ウイルス検査を行い、
効果判定を行います

エルバスビル+グラゾプレビル

2剤併用療法 (エレルサ[®]錠 + グラジナ[®]錠)

- ジェノタイプ1型の
C型慢性肝炎又はC型代償性肝硬変に用いる
- 腎機能障害のある方でも使用できます
- 血液透析で除去されないため、透析中の方でも服用時間を気にする必要がない
- 1日1回、エレルサ[®]錠1回1錠、グラジナ[®]錠1回2錠12週間(3ヶ月)服用



エレルサ[®]錠

1日1回 (1回1錠)

+



グラジナ[®]錠

1日1回 (1回2錠)

ソホスブビル+リバビリン2剤併用療法

(ソバルディ[®]錠 + コペガス[®]錠またはレベトール[®]カプセル)

- ジェノタイプ2型・3型の
C型慢性肝炎又はC型代償性肝硬変に用いる
- ジェノタイプ2型に対しては2剤を合わせて12週間(3ヶ月)、
// 3型に対しては24週間(6ヶ月)服用
- 中等度腎機能障害、貧血のある方には使用できません

ソバルディ[®]錠

1日1回(1回1錠)

+

コペガス[®]錠またはレベトール[®]カプセル

1日2回(用量は患者さんごとに異なる)



リバビリンは催奇形性がある
(避妊が必要、**妊婦禁忌**)

グレカプレビル+ピブレンタスビル 併用療法 (マヴィレット®配合錠)

- C型慢性肝炎又はC型代償性肝硬変に用いる
 - ➔ ジェノタイプ1型～6型まで全ての型に有効
- ジェノタイプ1・2型のC型慢性肝炎に対しては8週間(2ヶ月)、
// C型代償性肝硬変に対しては12週間(3ヶ月)、
ジェノタイプ3～6型に対しては12週間(3ヶ月)服用

マヴィレット®錠

1日1回 (1回3錠)

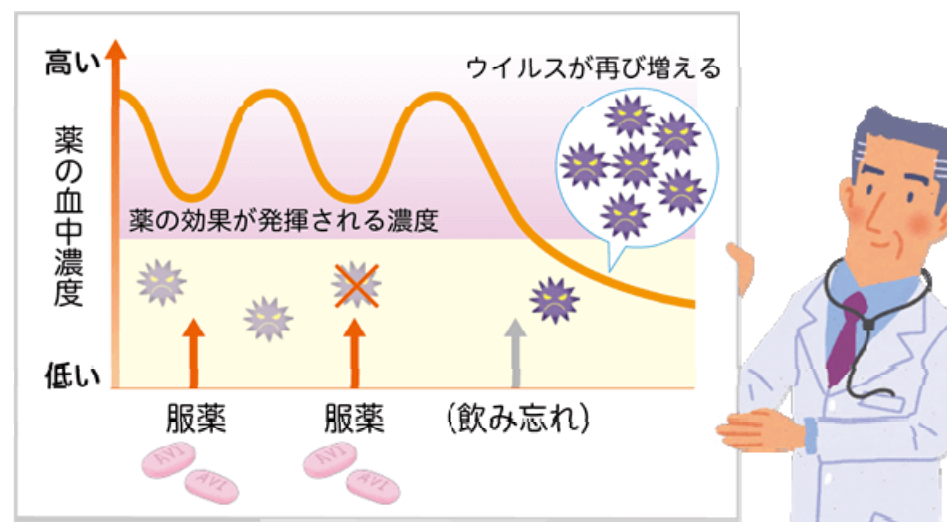


- ・透析中の方、腎機能障害がある方にも使用可能です。
- ・食後にお飲みください。

注意事項

- 肝機能、腎機能に応じて薬剤が選択されます。

- 治療の効果を得るために
飲み薬は毎日欠かさず
服用することがとても
大切です。



- 一緒に服用してはいけない薬やサプリメントがあります。
他院・他科を受診する場合は、お薬を服用中であることを
必ず医師・薬剤師に伝えてください。

他の薬との飲み合わせについて

(例: マヴィレット®配合錠)

一緒に服用してはいけない薬

- リファンピシン(抗結核薬:リファジン®)
- アトルバスタチンカルシウム(高脂血症治療薬:リピトール®)
- アタザナビル(抗HIV薬:レイアタツツ®)

一緒に服用する際に注意が必要な薬

- ジゴキシシン(強心剤)
- ダビガトランエテキシラートメタンスルホン酸塩(抗血小板薬:プラザキサ®)
- カルバマゼピン、フェニトイン、フェノバルビタール
(抗てんかん薬:テグレトール®、アレビアチン®、フェノバル®)
- エチニルエストラジオール含有薬品(卵胞ホルモン製剤)
- シンバスタチン、プラバスタチン、フルバスタチン、ピタバスタチン、ロスバスタチン
(高脂血症治療薬:クレストール®等)
- シクロスポリン(免疫抑制薬)
- セイヨウオトギリソウ(セント・ジョーンズ・ワート)含有食品

サプリメントや健康食品との飲み合わせにも注意が必要です。必ず医師・薬剤師にお知らせください。



など

セイヨウオトギリソウについて



- セントジョーンズワートとも言われ、オトギリソウ科の多年草で古代ギリシャの時代から薬用ハーブとして用いられてきた。
- うつ病や不安神経症、睡眠障害に有用といわれている。
- 体内に存在する薬物を代謝する酵素(CYP1A2やCYP3A4)を増やしたり 薬物の排泄を促進させ、様々な薬(抗ウイルス薬、抗がん剤、抗凝固薬、免疫抑制剤など)の効果を低下させる可能性がある。



⇒薬との飲み合わせに注意が必要

セイヨウオトギリソウについて

- 食品として健康食品やサプリメント、ハーブティーに含まれていることがある。

(例)



成分の確認を！

- 長期にわたって服用していた場合に影響が出る可能性が高い。服用を中止してもすぐに効果が消えるわけではありません。
- お薬の効果を高め、副作用を防ぐために、普段使用されている健康食品やサプリメントの情報は医師・薬剤師に必ずお伝えください。

B型慢性肝炎治療薬

ウイルスを減少させるが、
完全に駆除できない



自己免疫性肝炎



自己免疫性肝炎の薬



* 副腎皮質ホルモン(ステロイド)

炎症や自己免疫反応を抑えたり、肝臓の繊維を減らす効果がある。

量の調節が重要である。

* アザチオプリン等の免疫抑制剤

副腎皮質ホルモンの効果が不十分または副作用のため使用できない場合に使用する。

ステロイドの副作用

- * 易感染(感染にかかりやすい状態)
- * 胃潰瘍
- * 骨粗鬆症
- * 血糖上昇 ……薬などで対処できるものは行う。
- * 満月様顔貌(ムーンフェイス)
薬の服用をやめれば元にもどる。

* 自己判断で中止すると、再発や増悪を招きやすいので注意してください。



ウルソデオキシコール酸



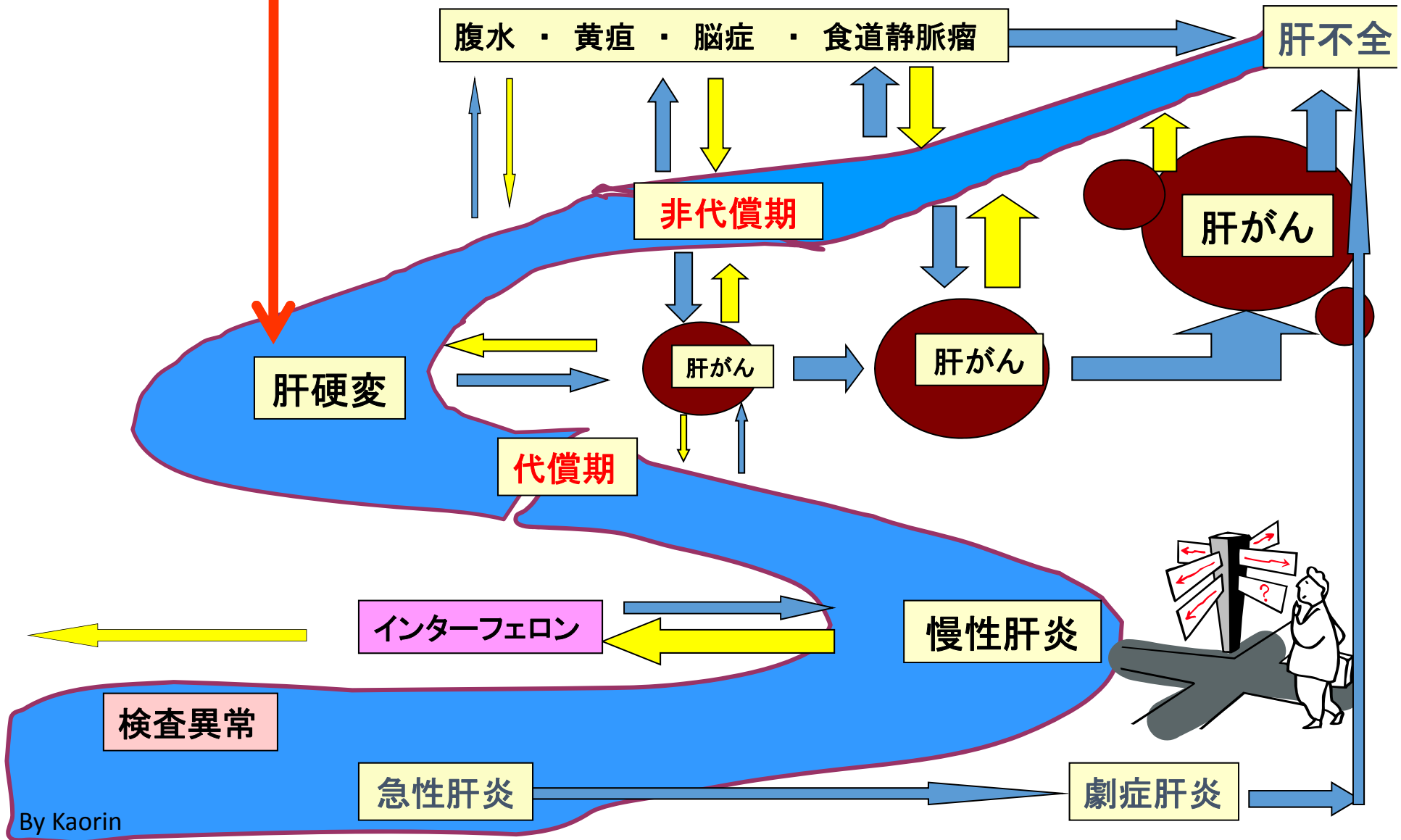
- もともと肝臓から作られる「胆汁(胆汁酸)」の一成分
→ウルソデオキシコール酸(UDCA)
- 商品名:ウルソ[®](飲み薬) など
- 作用:胆汁分泌を促進、胆石を溶かす、肝機能の改善
コレステロール吸収抑制
- 副作用:軟便、下痢、吐き気、胸やけ など

グリチルリチン製剤



- 漢方生薬の甘草(かんぞう): マメ科から抽出
- 商品名: ヒシファージェン[®] (注射)・グリチロン[®] (飲み薬)
など
- 作用: 抗炎症、免疫調節、肝細胞の保護
- 副作用: 食欲低下、胃の不快感、アルドステロン様作用
(低カリウム血症や高血圧)

肝硬変における薬物療法は？



肝硬変（合併症の治療）

肝硬変における薬

•高アンモニア対策

ピアーレ[®]、カナマイシン、リフキシマ[®]

便秘は大敵！

•肝性脳症対策、肝臓がんのリスク軽減

分岐鎖アミノ酸（BCAA）製剤: アミノバクト[®]、リーバクト[®]

•胃や食道粘膜保護対策

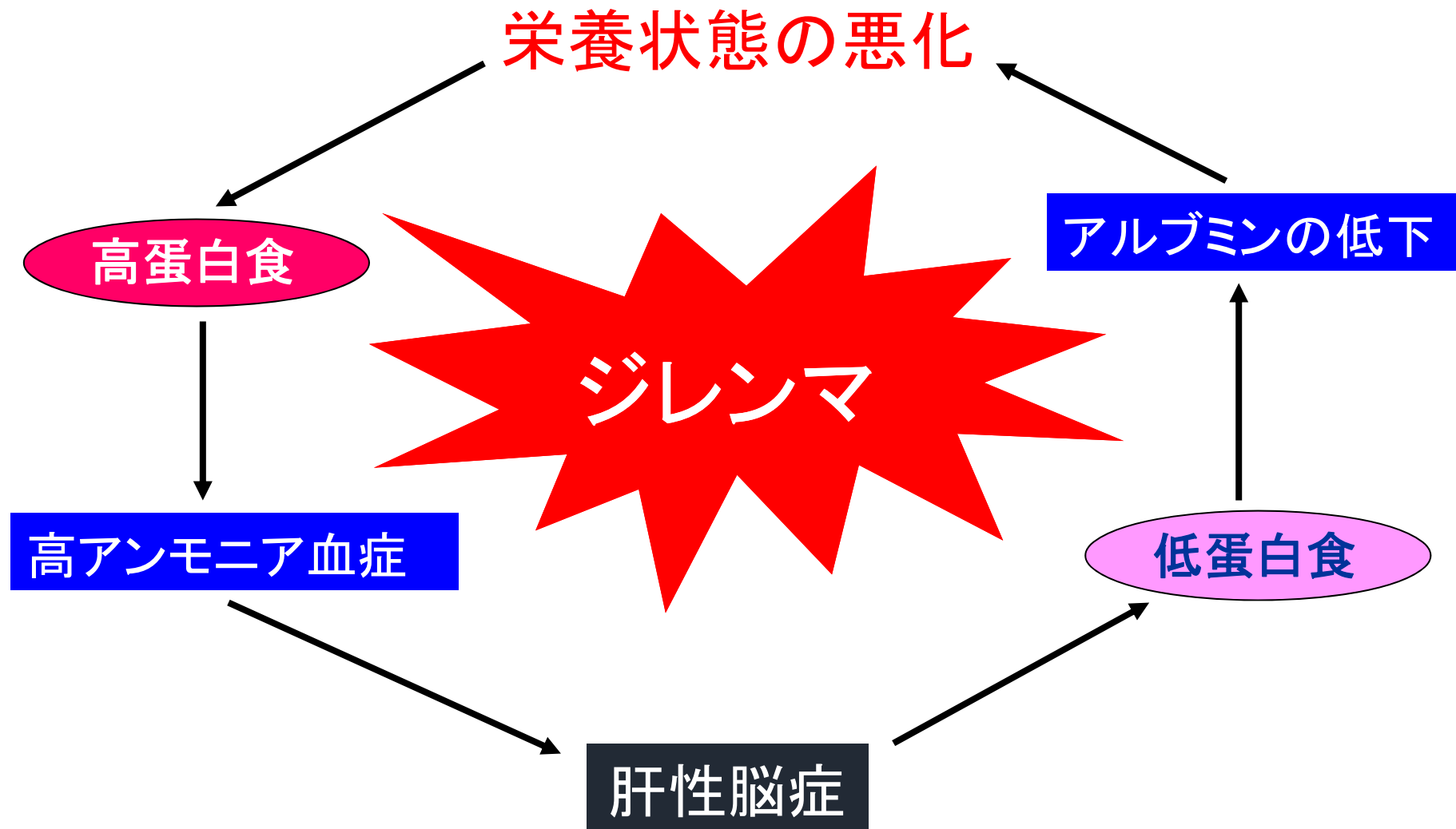
胃酸を抑える薬: ファモチジン[®]、オメプラゾール[®]

•腹水

利尿剤: フロセミド、スピロラクトン、サムスカ[®]

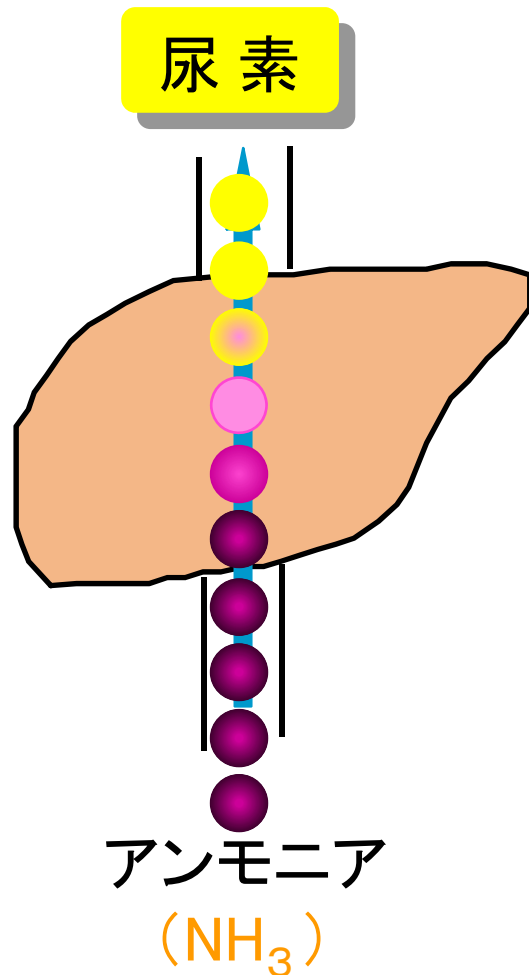
※電解質バランスを考えた組み合わせが大切

肝硬変の病態と栄養状態

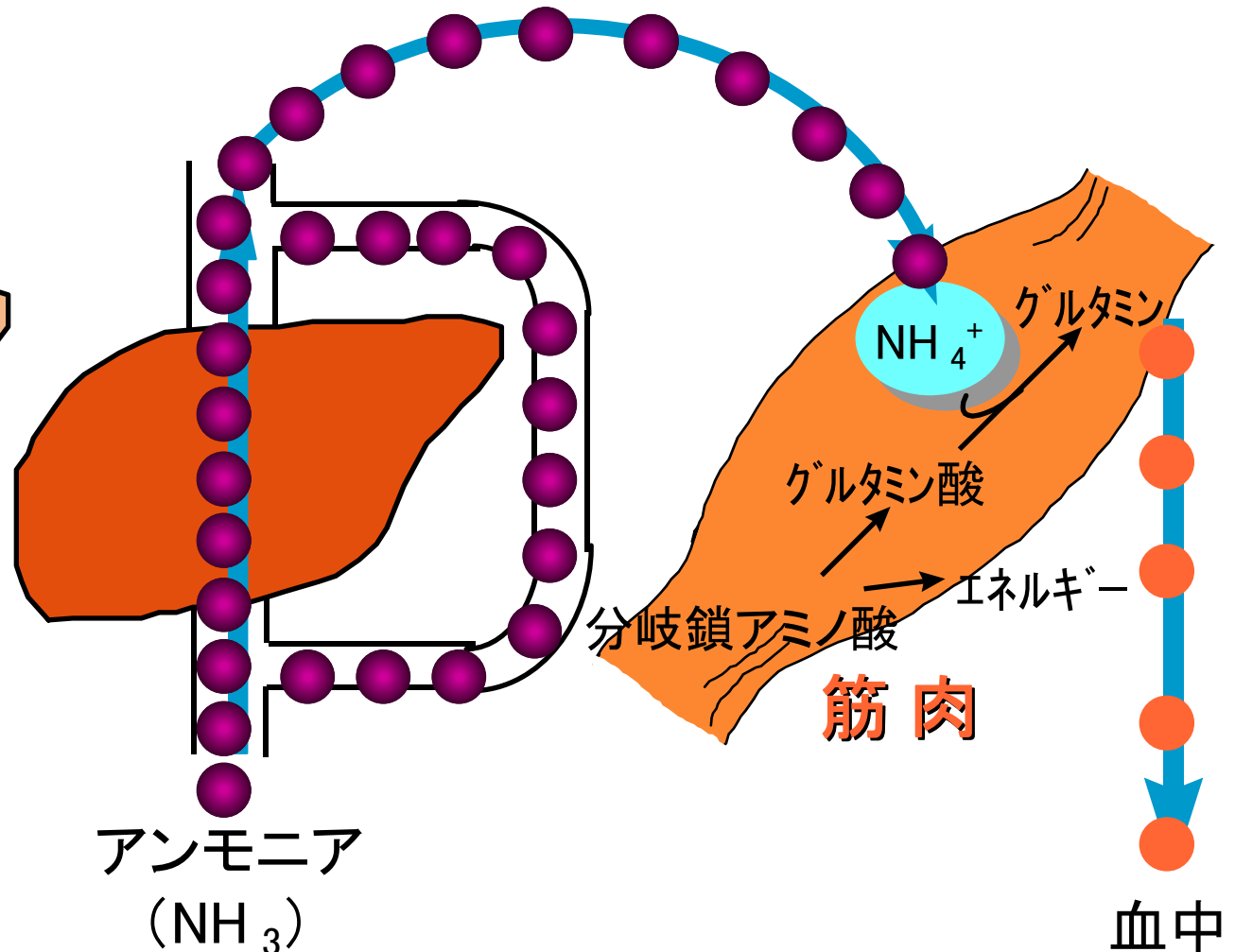


非代償性肝硬変患者のアミノ酸代謝とアンモニア

正常肝



障害肝 (筋肉でアンモニアの解毒)

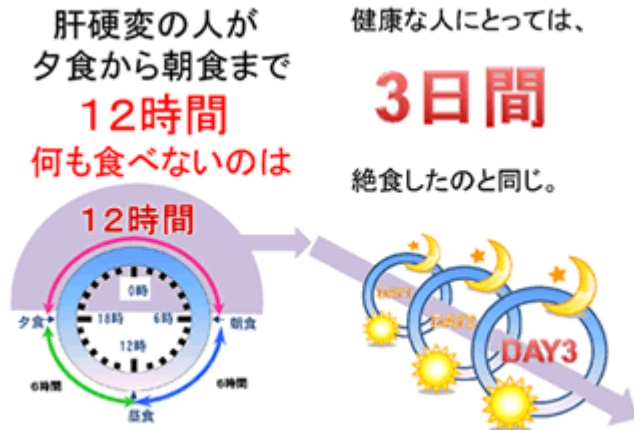


分岐鎖アミノ酸製剤 (BCAA)



BCAA+蛋白・脂質・糖質・ビタミン

BCAAのみ



(大塚製薬 だれにでもできる肝硬変の栄養療法)

肝臓が夜間にエネルギー不足にならないように、寝る前に少しのカロリーを補給する夜食療法 (LES) もあります。

最後に

- お薬は用法用量をきちんと守ってお飲みください。
- 何か気になる症状があれば、我慢せずに主治医に必ず申し出てください。
- 飲み合わせの確認などご不明な点がございましたら薬剤師にお声かけください。

